

明倫の風

明倫小 校長室だより 第5号
平成28年10月27日(木)発行
校長 椿 義 憲

今日は、松陰先生が亡くなられた日です。



校長室の松陰先生像

今日は、松陰先生が亡くなられた日です。
安政6年(1859)10月27日、伝馬町牢屋敷
(現在の東京都中央区)で亡くられました。今から
157年前のことです。享年30歳(満年齢29歳)
でした。

お墓は、東京都世田谷区の松陰神社と2年生が秋
の遠足で立ち寄る萩市椿東の護国山団子岩(松陰
誕生地の近く)にあります。萩のお墓には、松陰先生

の遺髪(亡くなった人のかたみの髪の毛)が葬られています。

さて、明倫小学校では、松陰先生の教えや一生(生まれて死ぬまでの間)
については、4年生から「松陰読本」(4年生になると、一人ひとりに配
られます)を使って学びます。なお、松陰先生の最期については、「松陰
読本」の68ページから76ページに書かれています。

ここで改めて、松陰先生の教えをいくつか朗唱文からあげてみます。

○ 至誠にして動かざるは 未だ之れあらざるなり(5年1学期)

(この上もない誠の心を尽くして、感動しなかったという人にはいまだあ
ったためしはない。誠を尽くせば、人は必ず心が動かされる)

○ 志を立てて もって万事の源となす(3年2学期)

(何事をするにも志〈心に決めたこと〉がなければ何もならない。志
を立てることが第一である)

○ 人賢愚ありと雖も 各々一己の才能なきはなし

湊合して大成する時は 必ず全備する所あらん(3年・なかよし3学期)

(人には、それぞれ能力に違いはあるけれども、だれも一つや二つの長所をも
っているものである。その長所を伸ばせば、必ず立派な人になれるであろう)

松陰先生のことを思いながら、今日一日を過ごしてください。